

第3章 目標と基本方針

3. 目標と基本方針

自転車利用等に係る現状・課題、札幌市の上位計画・関連計画を踏まえ、自転車利用環境の改善に向けた計画の目標並びに目標の実現に向けた計画の基本方針を下記のとおり設定します。

＜計画の目標＞

『安全で快適な自転車利用環境の実現による
魅力的なまちづくり』

3-1 計画目標の考え方

(1) 自転車の交通手段としての位置づけ

自転車は利便性や経済性に優れ、健康的で環境にやさしいといったメリット（正の側面）を持つ一方、不適切な利用によっては、歩行環境の悪化、景観の悪化、事故の増加をもたらすデメリット（負の側面）を持ち合わせています。

そのため、自転車が持つメリットを活かしながら、デメリットが生じないよう、適切な利用を促すための利用環境の整備や通行ルール遵守、利用マナーの向上に向けた啓発などが重要です。

また、札幌市では、自転車利用者の9割以上は冬期に他の移動手段を利用している状況にあることを踏まえると、四季を通じて誰もが快適に移動できる交通体系を維持していくことが求められます。

そのため、都市の交通体系の骨格は公共交通機関が担い、これからの札幌市のまちづくりにおいて重要な移動手段である自転車を“公共交通機関を相互補完する移動手段の一つ”として位置づけた上で、公共交通・自転車・自動車など各移動手段が役割を踏まえた上でバランスを保ちながら交通体系を構築していくとともに、安全で快適な自転車利用環境を提供することにより、誰にとっても魅力的なまちの実現を目指すことが重要です。

(2) 計画目標の考え方

札幌市では、平成23年（2011年）に自転車利用総合計画を策定し、自転車の総合的な利用環境の整備を着実に推進してきました。しかしながら、自転車走行空間の整備路線は限定的で、駐輪環境も地区によっては不足しているなどの状況があり、今後、さらに自転車活用を推進するにあたっては、利用環境整備を拡大していくことが求められます。

また、自転車は通勤・買い物などの日常的な移動手段としてだけでなく、レジャーやスポーツ、観光交通、運動、配達業務など様々な用途で用いられ、その役割を拡大しています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人との接触を低減する移動手段として自転車の

活用が関心を集めています。こうした自転車を取り巻く情勢の変化に対応できる環境の整備も必要となっています。

本計画では、自転車利用総合計画が目指した目標を引き継ぎ、歩行者・自転車・自動車が調和した誰もが安全に道路を利用できる環境を実現し、自転車の特性が十分に発揮されることで、まちの魅力向上や環境改善、健康増進等に寄与することを目指します。

3-2 基本方針の考え方

目標の実現のために、自転車利用総合計画の考え方を継続および拡大し、これまでの「自転車通行空間の整備」「総合的な駐輪対策の推進」「自転車の安全利用の促進」を着実に推進することを重視しつつ、新たな観点として「幅広い自転車活用機会の創出」を取り入れた4つの基本方針を設定しました。

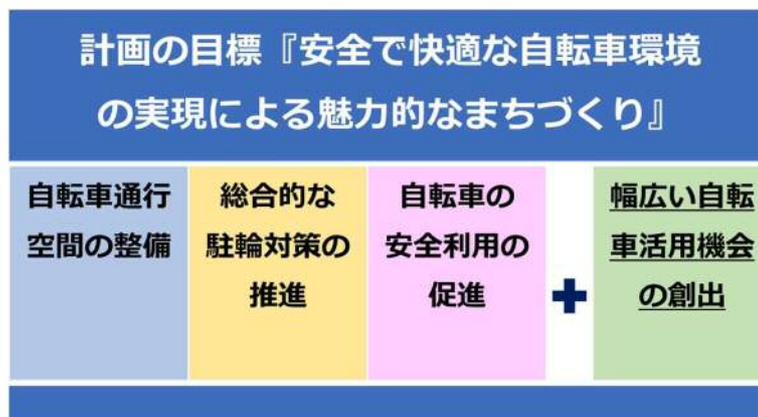


図 3-1 計画の目標と4つの基本方針

(1) 自転車通行空間の整備

札幌市では、「明確化の取り組み」に基づき、自転車通行位置の明確化に取り組み、自転車の車道左側通行を促進してきました。車道を走行する自転車の割合は増加していますが、依然として歩道を走行する自転車も残っており、道路利用者にとって十分に安全性を確保できていない状況にあります。

これまでの取組の効果や、地域課題、多様な利用者のニーズなどを踏まえながら、自転車通行位置の明確化のさらなる推進や、既存の自転車ネットワーク同士の連携、新規道路計画や整備などに合わせた自転車通行空間の確保などといった自転車通行空間の整備を推進します。

(2) 総合的な駐輪対策の推進

自転車利用総合計画策定以降、駐輪場の施設容量を約1万台分拡大し、駐輪台数に対して十分な施設容量が確保された地区がある一方で、依然として施設容量が不足する地区があり、路上への放置自転車による歩行空間の安全性の低下や景観の悪化等も引き続き課題となっています。

今後も、駐輪場の確保の状況や地域・利用者のニーズを踏まえるとともに、駅周辺などの駐輪台数や駐輪状況の調査をもとに駐輪需要を把握した上で、公共駐輪場整備や放置自転車対策、附置義務条例見直しによる適正な駐輪台数の確保などを組み合わせた総合的な駐輪対策を実施し、安全で快適な歩行空間の確保や景観保全を目指します。

(3) 自転車の安全利用の促進

自転車通行位置の明確化の取組を着実に進めています。自転車と歩行者の事故は毎年一定数発生しています。道路利用の安全性向上を図るうえでは、ハード対策に加えて、万が一の事故に備えた保険への加入やヘルメットなどの安全装具の着用、ルールやマナーを守った自転車利用が重要です。

また、自転車利用の多様化にあっては、スポーツサイクルや子供乗せ電動自転車など自転車タイプも様々であるほか、業務での利用者や観光客などの利用者の属性も幅広くなっており、自転車の安全な利用に向けて、自転車利用に対する理解とお互いへの思いやりが欠かせません。

自転車利用者や自動車運転者の安全意識を高め、ルールの遵守・マナーの向上により自転車事故の減少を目指します。

(4) 幅広い自転車活用機会の創出

近年、全国各地でサイクルツーリズムの取組が活発化しており、北海道でも、モデルルートが選定されるサイクルツーリズムの取組が推進されています。

また、自転車は適正な運動強度を維持しやすく、生活習慣病の予防が期待できるなど、健康づくりでの活用にも注目されています。札幌市内でより自転車利用を楽しめる環境を提供することで、新たな観光の魅力づくりや市民の健康づくりに寄与することが期待されます。

また、自転車はその機動性の高さから災害時の移動手段としての活用が期待されており、災害発生時にその効果が発揮できるように活用体制を構築します。